



岩国医療センターだより

2026年5・6月号 VOL.165

ご自由にお持ちください。



岩国医療センター附属岩国看護学校 卒業式



目次

② 院長新年度のご挨拶、着任のご挨拶

③ 医師の異動

第6回 山口県東部外傷セミナー

④ 【看護部だより】

『インドネシア・ガネーシャ教育大学
看護学科の学生さんが見学に来られました』

⑤ 【緩和ケアだより】

緩和ケアセンターについて

⑥ 当院へのご意見に対する回答

看護学校 オープンスクール開催予定

⑦ インフォメーション

市民公開講座、看護師特定行為研修修了式、
ほっとサロン虹のご案内、コラム

院長 新年度のご挨拶



院長 田中屋 宏爾

[歩み]

当院は1942年に岩国海軍病院として開設して以来、80年以上にわたり、地域の皆様の温かい支えと、日々医療を支える職員一人ひとりの力によって、地域医療の歩みを重ねてまいりました。1945年に厚生労働省へ移管し国立岩国病院として発足、2004年には独立行政法人化し、国立病院機構岩国医療センターとなりました。2012年に長年親しんできた黒磯の地を離れ、エントランスを飾る錦帯橋をモチーフとしたステンドグラスが迎えてくれる愛宕山の新病院に移転しました。

これまで当院を支えてくださったすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

[当院の使命]

当院の主な使命は、救命救急センターを備えた医療機関として、山口県東部の医療圏における高度急性期医療を担うこと、また、地域周産期母子医療センターとして、市民の皆様が安心して出産・子育てを行える環境を守ることです。さらに、岩国市の3分の2を占めるへき地における医療を、地域の医療機関と連携しながら提供していくことも、当院の重要な役割です。

また、安全で体に優しい医療の実現を目指し、ピンポイントで放射線を照射できる治療装置や3D画像解析システム、不整脈に対する新たな治療装置（パルスフィールドアブレーション）を導入するとともに、ロボット支援手術機器についても更新を行いました。

[今年度の目標]

少子高齢化や物価高、人材不足が日本の経済や市民生活に深刻な影響を与え、医療・福祉制度を取り巻く環境も一層厳しさを増しています。

こうした状況の中、今年度は、より治療効果が高く、低侵襲な医療に挑戦するとともに、人材の成長を力に地域医療を支え続けるという決意のもと、「2歩、先をめざす」と「人材を守り、育てる」の二つを目標として掲げました。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

管理課長

竹内 亘弘

この度、4月1日付けで管理課長として参りました、竹内と申します。まだ藤生駅近くに病院のあった頃、17、8年前に経営企画係長として3年半勤務していました。本当に久しぶりに岩国に帰ってきましたが、知っている人は少なくなりました。

私にとっての新病院は、綺麗で大きいなというのが印象です。元来、方向音痴なところがあるので、迷っている私を見かけたら怪しい者ではありません、優しく声をかけていただければとても喜びます。

管理課業務は10年ぶり、契約業務や経営企画・医事業務分野の経験の方が長く、最初は即答できない場面もあるかもしれませんが、勉強させていただき、少しでも早く皆さんのお力になれるよう頑張りたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

ちなみに自宅は呉で、この原稿を書いている時点では毎日通勤しているところですが、既にギブアップ寸前です。。

看護学校教育主事

吉田 美栄

4月1日付けで、岩国医療センター附属岩国看護学校に着任いたしました教育主事の吉田美栄と申します。5年前に1年間、岩国医療センターで勤務し、地域に根ざした医療と人材育成の大切さを学ばせていただきました。再びこの地で、学生一人ひとりの学びと成長を支え、病院・看護学校・地域をつなぐ看護教育に取り組むことを大変うれしく思っております。

学生が地域医療を担う看護職として成長できるよう、力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。





医師の異動

(順不同)

～ 2026年4月1日付 新任～

呼吸器内科医師	安東 千裕	循環器内科レジデント	鈴鹿 晃介	整形外科医師	市川 天彦
消化器内科医師	宮本 和也	外科医師	二神 花菜	整形外科レジデント	川上 弘夢
消化器内科医師	浜田 健太郎	外科レジデント	大林 寛	形成外科医師	柏 理果
消化器内科レジデント	木原 帆香	心臓血管外科医師	環 文乃	小児科医師	井出 貴大
消化器内科レジデント	山崎 奈波	胸部外科レジデント	氏永 泰光	小児科レジデント	恵美 拓也
循環器内科医師	水野 智文	脳神経外科医師	河内 哲	皮膚科医師	村田 愛美
循環器内科医師	村田 憲郁	脳神経外科レジデント	岡本 裕成	麻酔科レジデント	升 瞳碧
循環器内科レジデント	重中 鵬徳	耳鼻いんこう科医師	田中 慎太郎	救急科医師	縄田 裕之

～ 2026年3月31日付 退職・転出～

呼吸器内科医師	小柳 太作	外科医師	益永 あかり	整形外科医師	村岡 聡介
消化器内科医師	矢鍋 之照	外科医師	渡邊 めぐみ	整形外科医師	守屋 真我
循環器内科医師	大塚 寛昭	外科レジデント	野坂 未公音	小児科医師	清水 雄一
循環器内科医師	越智 正彦	心臓血管外科レジデント	前田 聖和	小児科医師	市来 章裕
循環器内科医師	今村 繭子	胸部外科レジデント	白羽 範昭	皮膚科医師	池田 賢太
循環器内科レジデント	湖山 恵多	脳神経外科レジデント	田村 遼	麻酔科医師	市瀬 仁
循環器内科レジデント	向田 夏伽理	耳鼻いんこう科医師	三浦 直一	放射線科医師	櫻井 淳暢
循環器内科レジデント	兒玉 悠暉	泌尿器科レジデント	池田 拳人		

第6回

「山口県東部外傷セミナー」
が岩国消防署で開催されました。

8階西病棟
副看護師長
満田 絵梨

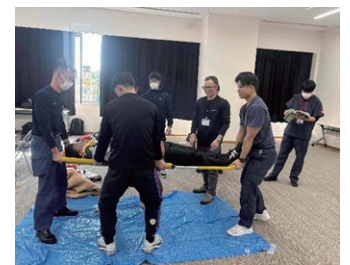


外傷セミナーとはJPTEC (Japan Prehospital Trauma Evaluation Care) の研修で病院前救護に関わる人々が重症外傷患者に対して安全かつ迅速な観察・処置を行うための標準化された教育プログラムです。高所からの転落や交通事故の時に救急車で現場へ行き、適切な処置と観察を行い救命率を上げることを目標としています。

今回、当院看護師である救命救急センター病棟の三橋哲太さん、ICUの安永愛さん、多田和葉さんの3名が参加してくれました。普段実施することのない現場での観察・判断、病院への搬送準備・搬送連絡に加えて事故車両からの車外救出を学ぶことが出来て、3名の知識も広がったと思います。

また、第4回を受講した8階西病棟の芦村郁子さんが、テスト参加、インストラクターコースを受講し、プレインストラクターを経て今回インストラクターに昇格となりました。インストラクターも増えつつあり、今後の研修を盛り上げてくれると思います。

今後も山口県東部外傷セミナーを継続し、岩国消防署と岩国医療センターが協力し合い岩国市民の方々の救命率を上げられるよう努力していきたいと思ひます。





『インドネシア・ガネーシャ教育大学 看護学科の学生さんが 見学に来られました』



副看護部長 宮本 慶克

令和8年3月2日(月)10時から12時まで、インドネシア・ガネーシャ教育大学看護学科の学生7名と引率教員1名が当院を見学されました。これは、周南公立大学が参加している「さくらサイエンスプログラム」の一環で、アジアを中心とする各国の優秀な若者を日本に招き、国際的な人材育成と交流を促進することを目的とした事業です。

「日本の先端医療に関わる看護師の仕事を知り、その実践看護師を育てる看護教育を体験する交流研修プログラム」として、インドネシア・ガネーシャ教育大学看護学科の学生7名が来られました。周南公立大学の担当者から、地域の高度医療を担う中核病院として先進的な医療提供と質の高い看護実践を推進している岩国医療センターをぜひ見学させてほしいとの申し入れがあり、当院で行われている最新治療や実際の医療の現場を見て頂きました。

手術室では、麻酔科の申先生が流暢な英語で当院の手術体制やロボット手術について説明されました。学生からは「ロボット手術を介助する看護師の役割は何ですか」などの質問もあり、申先生に通訳していただきながらひとつひとつ説明しました。実際のロボット手術の様子も(部屋の外からですが)短時間見学していただきました。また、集中治療室では、入室している患者さん

に行われている治療、看護の実際について説明し、さまざまな医療機器も紹介することができました。

その後、救急外来や一般外来、血管造影室を見学した後、ヘリポートへ移動しました。インドネシアでは軍事情用のヘリコプターしかないとのことで、「どのように要請して搬送するのですか」などの質問がありました。また、屋上からの景観にもとても喜ばれ、見学を終りました。

最後に本日の御礼として、看護部に対してインドネシア(バリ島)のTシャツと、学生が所属するガネーシャ教育大学の徽章が手渡されました。

今回、2時間という短い時間ではありましたが、将来インドネシアの医療・看護を担う学生の皆さんに岩国医療センターを紹介することができました。学生の皆さんは非常に熱心で、多くの質問をしながらメモを取り、より多くを学ぼうとする姿勢が印象的でした。国は違いますが、同じ看護の仲間として、将来それぞれの国で活躍されることを願っています。



インドネシア(バリ島)のTシャツと
学生の所属するガネーシャ教育大学
の徽章を頂きました。



緩和ケアセンターについて

地域医療連携係
がん相談支援センター
医療社会事業専門員
西田 歩未



緩和ケアと聞くと、「最期を過ごす場所」「一度入院したら退院ができない」印象をお持ちの方もいると思います。また、一般病棟と違い費用が高額になるのではないかと心配されるお声もいただきます。緩和ケアセンターについてよくいただく質問をご紹介します。

Q どのような方が入院できるの？

- A**
- がん患者様で、治療を目指した治療（手術・抗がん剤治療など）が終了もしくは中止している方
 - がんの進行に伴う様々な苦痛に対して和らげる治療やケアが必要な方 など
- 詳しくは、地域医療連携室・がん相談支援センターにお問合せください。

Q 費用はどのくらいかかるの？

- A**
- 一般病棟と同様に各種健康保険の適用です。個人負担割合は、加入されている医療保険等により異なります。有料個室をご希望されましたら、別途個室料が発生します。
- 有料個室：11,600円/日、3,500円/日
※無料個室であればお部屋代はかかりません

Q 緩和ケアセンターに入りたいけどどうしたらいいの？

- A**
- 当院の通院患者様は当院担当医、他院からのご紹介患者様はかかりつけ医にご相談ください。緩和ケア外来を受診していただいた方から予約となります。

Q ずっと入院できるの？

- A**
- 入院して1ヶ月経過する頃から、毎月当病棟での入院継続が必要か検討します。病状が落ちつき、しばらくの間状態が安定することが見込まれる時には退院・転院をご提案させていただきますことがあります。

Q 症状が良くなったら家に帰りたいのだけど…

- A**
- 症状が緩和され、主治医から退院の許可がおりたら退院できます。退院後の生活についてご希望を伺いながら、必要に応じて訪問診療・訪問看護・介護保険サービス等調整します。

Q ペットと一緒に過ごしたいけど病室に連れて行っていい？

- A**
- ペット面会は可能です。（鳥・爬虫類の面会はご遠慮ください。犬・猫以外は要相談です）ペット面会の際はあらかじめ病棟の看護師にご相談ください。

緩和ケアセンター入院相談の方法

下記相談窓口へご相談ください。

窓口	地域医療連携室・がん相談支援センター または各診療科
場所	2階（総合受付1番の隣）
連絡先	0827-35-5645
受付時間	平日 8時30分～17時

緩和ケア病棟見学会を開催しております。
興味や関心をお持ちの方はお気軽にお越しください。

緩和ケア病棟をもっと知ろう

緩和ケア病棟 見学会のご案内

毎月第2・第4水曜日10時より開催中

集合場所：岩国医療センター
10階東緩和ケアセンター
デイコーナー

問い合わせ：がん相談支援センター
地域医療連携室
電話 0827-35-5645
8:30～17:00（土・日・祝を除く）



当院へのご意見に対する回答

当院では、2階正面玄関ホールと3階外来・各病棟ラウンジに「患者さんからのご意見箱」を設置しています。皆様からお寄せいただきましたご意見は、当院の運営における貴重な資料として活用させていただきますとともに、ご意見に対し当院の考え方等をご説明申し上げて回答としておりますので、ここに紹介します。

ご意見の内容	付き添いで外来を受診しました。診察の待ち時間に食事をしようと思いましたが、食べるところがないのでとても不便です。椅子があっても外来の人が歩きまわっているような廊下にあるのでとてもじゃないですが何かを食べたりできません。せめて、イートインのようなスペースがあればいいと思いました。他の病院はあるところが多いです。
回答等	この度は貴重なご意見をありがとうございます。 お食事をされる際、ロビーが混み合い、落ち着いてお過ごしいただけなかったとのこと、ご不便をおかけいたしました。同様のお声はこれまでも多数お寄せいただいております。患者様が待ち時間中に少しでも快適にお過ごしいただけるよう、対応の一環として、現在は2階ファミリーマート前にイートインスペースを設置しております。混雑状況によってはご不便をおかけすることもあるかと存じます。今後もお気づきの点がございましたら、どうぞご遠慮なくご意見箱へお寄せください。貴重なご意見をありがとうございます。
ご意見の内容	日々大変な中看護してくださりありがとうございます。中でも、〇〇さんは細やかな気遣い、また患者さんの状況に応じて的確に対応して下さいます。家族としても安心感がありますし、とても信頼しています。本人も「〇〇さんが来てくれると安心する」とよく言います。さっぱりとした明るさで、てきぱきとしてくださるので本当に心強いです。自由がきかない身としては、身体の保湿ひとつにとっても、ささいなことでも気にかけてくださるのは、すごくありがたいですし助かっていると思います。本当にありがとうございます。
回答等	この度はお褒めの言葉をいただきありがとうございます。患者様からのお褒めの言葉は私たちにとって何よりも励みになります。名前を挙げていただいたスタッフにはお言葉を伝えました。今後も患者様、ご家族が安心して入院生活を送るために、スタッフ全員が温かい心のある対応ができるよう日々努力してまいります。 またお気づきの点がございましたら、お気軽に病棟スタッフへお伝えいただきますようお願い申し上げます。

今後共お気づきの点がございましたらご意見箱へお寄せいただければと思います。ありがとうございます。

患者サービス向上委員会

岩国看護学校 オープンスクール開催予定

今後の開催日程

6月13日(土) 午前
7月19日(日) 午後
7月31日(金) 午前
8月9日(日) 午後
9月13日(日) 午前

*発熱・咳嗽・倦怠感等の症状がある場合は参加をご遠慮ください。

内容

模擬授業体験・学生による学校案内・学生との交流コーナー等

詳細は、インスタグラム、または看護学校ホームページをご覧ください。

学校見学は、いつでも受け付けていますので下記までご連絡ください。

岩国医療センター附属岩国看護学校
〒740-0037 山口県岩国市愛宕町1-3-1
TEL: 0827-34-2000
FAX: 0827-35-5700



今月号表紙は、3月2日に行われた岩国医療センター附属岩国看護学校卒業式の様子です。



市民公開講座（当院研修センターにて開催）

2025年度 第4回 市民公開講座

『がんと仕事の両立』 ～治療を受けながら働くための知識と支援～

2026年2月28日(土) 10:00～12:00

主催：独立行政法人 国立病院機構 岩国医療センター

共催：独立行政法人 労働者健康安全機構 山口産業保健総合支援センター



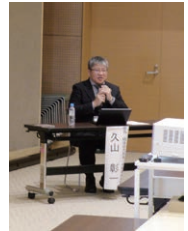
はじめに当院臨床研究部長 呼吸器内科 久山彰一医師よりあいさつがありました。

講演はまず、「岩国医療センターにおける就労支援の取り組み」…当院 上田佳奈がん看護専門看護師からのお話でした。次に「『治療と仕事の両立支援』と山口産業保健総合支援センターの業務」…山口産業保健総合支援センター副所長 戎本潤さんのお話でした。

特別講演は「肺がん『長期生存次代』を生きる～治療も仕事もどちらもあきらめないために～」…関西医科大学 呼吸器腫瘍内科学講座准教授 池田慧さんのお話でした。

がん告知をされた患者さんのうち約4割が告知後2～3週間で仕事を辞めてしまっているアンケート調査があり、がん治療開始前に離職した方のうち、医師と就労状況や希望を話し合った後離職した方は2割程度しかいなかったというアンケート調査もありました。離職をしてしまうと復職は難しくなるため、医師へ自身の希望を伝えることが重要、というお話もありました。

ディスカッションでは司会を久山医師、ディスカスタントとして参議院議員（元NHO 四国がんセンター呼吸器内科医長）の原田大二郎さんを迎え、本日講演した3名の方々と共に講座参加者からの質問などに回答しました。今回の市民公開講座の参加者は72名でした。



『令和7年度 看護師特定行為研修 第1期生修了式』

2026年3月11日、看護師特定行為研修修了式を行いました。当院の受講者2名が約1年間の研修を終え、田中屋院長より修了証を受け取りました。（当院は、特定行為研修を修了した看護師が複数在籍しています。）



特定行為

診療の補助で看護師が手順書により行う38の行為で、実践的な理解力、思考力・判断力、高度かつ専門的な知識・技能が特に必要とされるもの。当院では救急領域パッケージの特定行為研修を実施している。





『ほっとサロン虹』のご案内

がん患者さんやご家族の皆様が病気や暮らしなど気になること、相談したいことなど、お話ができる場です。事前申込み不要ですので、お気軽にご参加ください。(地域医療連携室)

開催日	テーマ	講師
5月15日(金)	医師とのコミュニケーションについて考えてみよう	がん看護専門看護師
6月12日(金)	ヨガをやってみよう	ヨガインストラクター



開催日時：14：00～15：00(毎月第3金曜、6月は第2金曜開催)
場所：2階患者図書室
対象：がん患者さんとご家族(院外の方も参加できます)

※急遽、予定が変わる場合がございますので、当院ホームページにてご確認ください。

岩国医療センターほっとサロン虹



この記事はあくまで個人の見解です



2027年末 蛍光灯の製造・輸入禁止!

臨床検査科
安光 正治



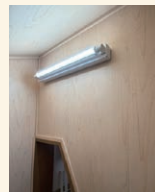
2027年末をもって蛍光灯の製造・輸入が禁止される話は御存知かと思います。我が家は築25年を超え、居室のシーリングライトを始め何カ所も蛍光灯が使われています。一度も交換していない蛍光灯もありますから、買えるうちに何セットか買い溜めておけばいいかもとか、そのまま取り替えることのできるLED管があると聞き、点かなくなったらその時に管だけを替えればいいのかも、と思ったことがありました。けれども、そう簡単な話ではありませんでした。

買い溜めと言っても保管に困りそうですし、蛍光管自体も劣化してきます。さらに将来処分に困る可能性も。また照明器具自体には耐用年数があり、故障、事故発生が増えていくなど、決して得策ではありません。

蛍光灯管のLED管への取替が簡便でよさそうに思いがちですが、実はこれが最もややこしい話でした。ググっていただいたほうが理解しやすいと思いますので詳細は割愛しますが、1)照明器具自体の耐用年数があり、古くなると故障、事故が起きやすいこと、2)蛍光灯の点灯方式には数種類あり、それぞれ取替の可否だったり方法、そして使えるLED管が違うこと(間違えると最悪発火、火災の危険があります)、3)「工事不要」となっているLED管であっても、器具にはLEDでは不要な部品(安定器、インバーターなど)が残ったままで無駄な電力を消費し続けるため、故障、発熱、発火リスクが高まり、省エネにもならないこと、4)片側給電、両端給電など間違えると危険な種別があること等々、頭が痛くなりそうな話が並びます。特に「工事不要」と言う言葉を鵜呑みする

のは危険だと思います。先の3)などもあり、安定器を外す(バイパス工事)などの工事(要資格)が推奨されていますし、1)からも古くなっていれば全取替のほうが安全でしょう。

LEDは蛍光灯に比べて「寿命が長い」「消費電力が少ない」多くで「明るい」「調光(色)できるものがある」ようです。デメリットは電球の形のものなど一部を除けば、蛍光灯のように自分で発光部(LED)だけを交換することができず、器具共々総取替が必要となることでしょうか。引掛シーリング(コンセント、ソケット)に取り付けられている照明ですとどなたでも取替できますが、配線が直付されている場合は有資格者に工事してもらう必要があります。



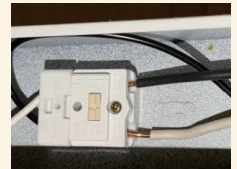
器具ごとLEDに交換

器具ごとLEDに交換

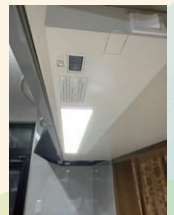
実は最近、LED化工事も理由の一つとして第2種電気工事士の資格を取りましたが、将来のことを考えると「LED管への取替ではなく、最初からLED照明に替えてしまえば、点かなくなったら電気屋さんに取り替えてもらう」ほうが工事の危険も少なく、専門知識のない家族にとっても安全且つ安心だろうと思うようになりました。そのため、ほとんど趣味での工事みたいになりましたが、何カ所か器具ごとLEDに交換してみました。その中で小屋裏の照明、中の配線が抜けかけていました。危ないところでした。古い照明器具は点検したり、予防安全の意味で取り替えてしまうほうが安全でしょう。やってよかったと思います。他にも、流し元照明をタッチレススイッチ併用式LEDに替え、明るく便利になったと好評です。引掛シーリングのものは全てネットでポチって自分で取り替えました。家の中、かなり明るくなりました!



引掛シーリング



抜けかけた配線



流し元照明

さて、蛍光灯の2027年問題 貴方はどうされますか?

そろそろ考えてみられては如何でしょうか?